社会的インパクト評価ツールセット
環境教育

Version 1.0

2017 年 6 月 29 日

GSG 国内諮問委員会

社会的インパクト評価ワーキング・グループ

I. はじめに

本評価ツールでは「環境教育」を分野として取り上げています。「環境教育」における活動・事業は幅広く、野外活動・自然体験、自然・動物保護、リサイクル、省エネ活動などの市民活動、学校が主体となっている持続可能な開発のための教育（ESD）など、多岐にわたります。本評価ツールは主に、野外活動・自然体験に関わる事業における社会的インパクト評価を想定して作成されており、その様な事業に関わる方々を利用者として想定しています。

なお、本評価ツールは子供・成人を対象に自然体験を通した環境教育を実施している事業者、その様な事業者を支援する資金提供者、「環境教育」分野の専門家などへのインタビューをもとに作成しています。

II. ロジック・モデルをつくる

社会的インパクト評価ツールセット実践マニュアル 「Step 1: ロジック・モデルをつくる」参照

II.1. 事業の目標と受益者の特定

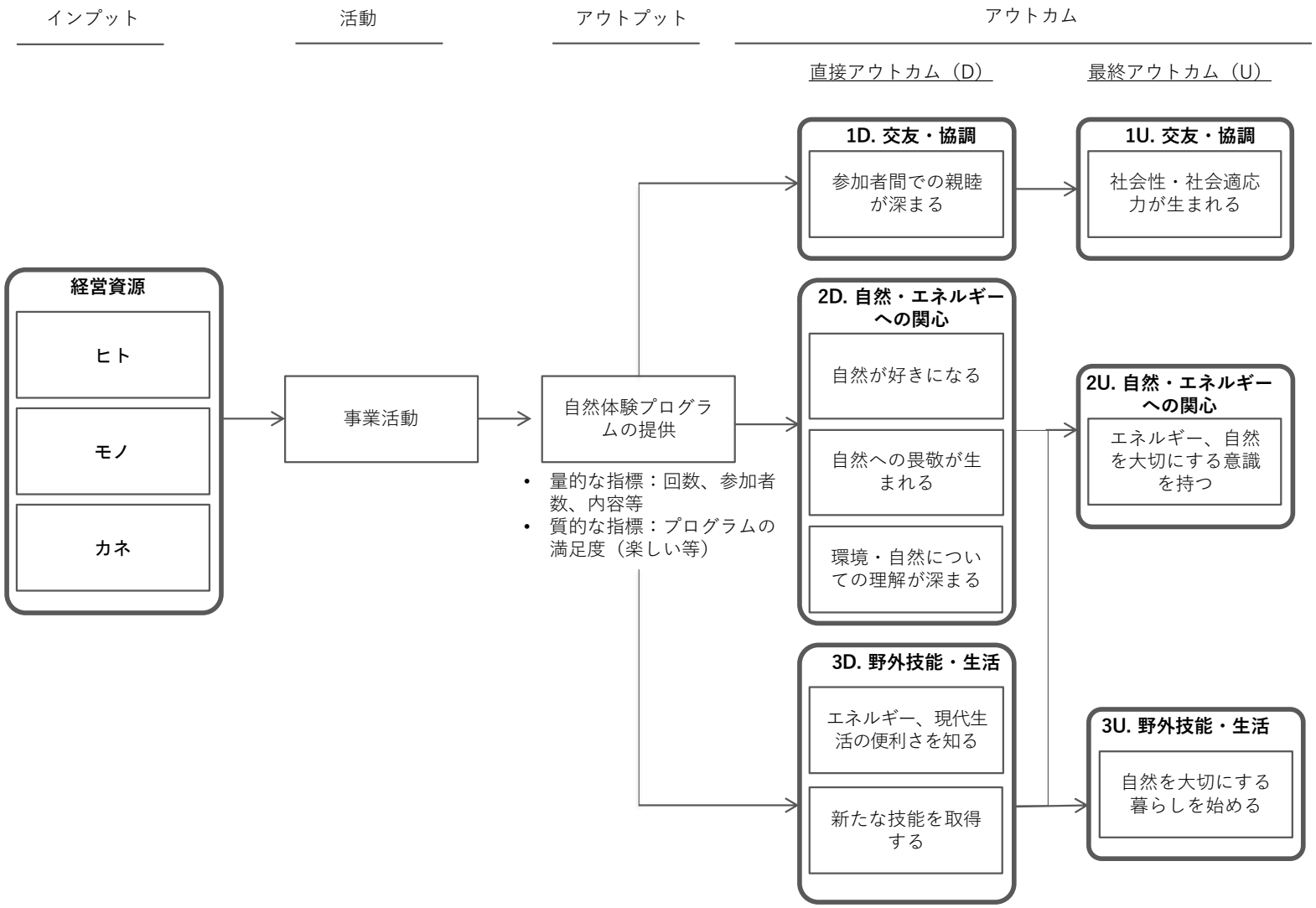
本評価ツールでは、対象事業となる「環境教育」の最終的な目標を、事業対象者である「プログラム参加者」が、プログラムを通じて自然・環境へ関心を持ち、環境を意識した生活や環境保全につながる行動を始めたりすることとしました。また、「プログラム参加者」が上記に至る過程で発生する波及的成果が、「参加者の周辺（家族、友人、コミュニティなど）」にも現れることが想定される場合もあることから、それらについても事業の受益者に含め、環境保全に対する貢献を最終的なアウトカムとして捉えました（図表２）。

日本においては、一般的に、環境教育における構成要素として「環境から学ぶ（in のアプローチ）」、「環境について学ぶ（about のアプローチ）」、「環境のために学ぶ（for のアプローチ）」があるとされています。どのアプローチをとるかは事業によって異なりますが、上位目標として、「学びを他者に伝える、社会還元する」という要素を想定し、事業を行なうことが重要であると考えます。

II.2. アウトカム（成果）のロジックを考える

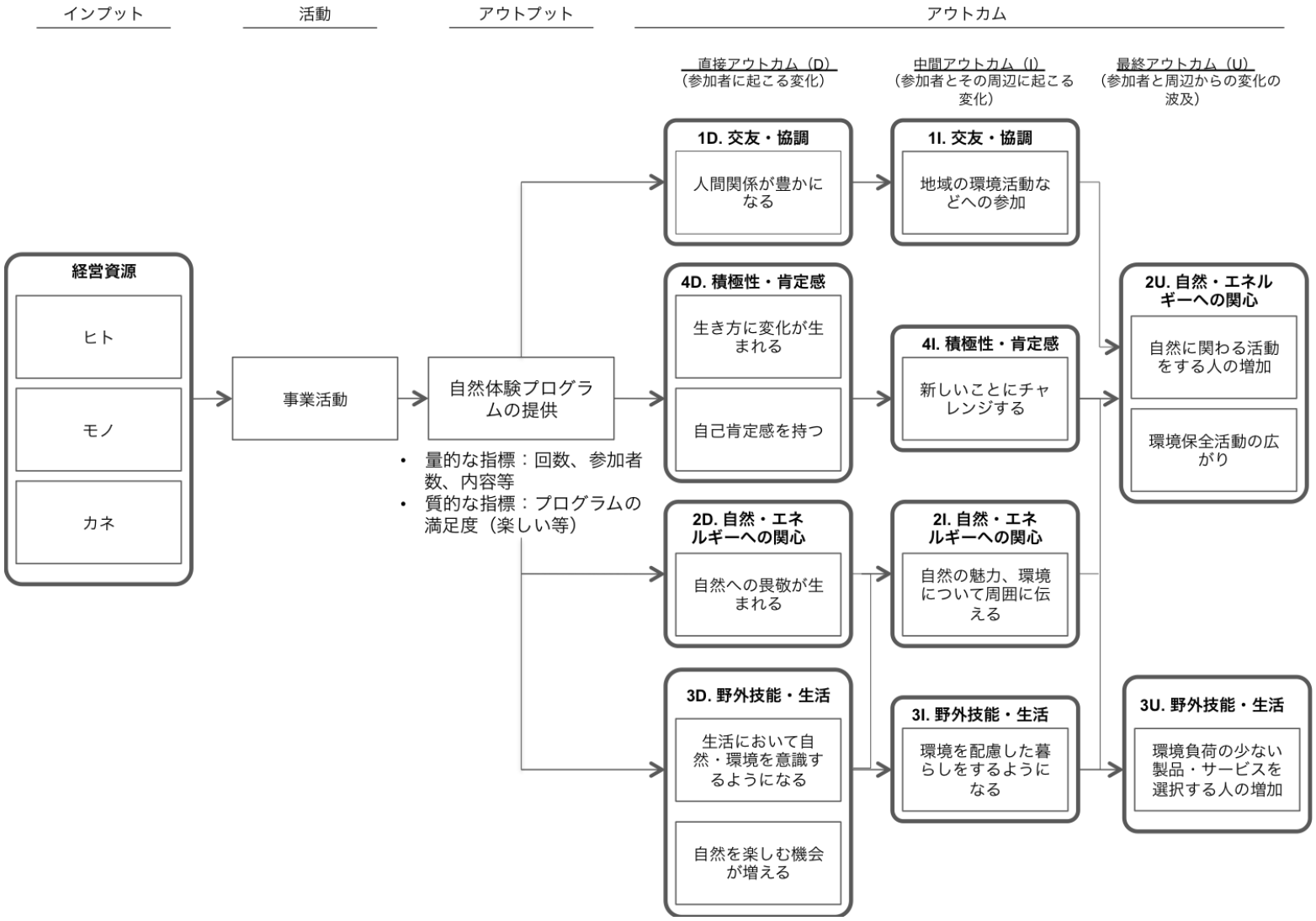
対象事業の成果を評価するために、事業の受益者である「プログラム参加者」、「参加者の周辺」について、事業を通じて達成できる目標とアウトカム（成果）と、それにいたる活動および変化の因果関係を「ロジック・モデル」として示します（図表１、図表 2）。事業の性格に加え、事業の受益者が子どもか成人かによって、最終アウトカムにおいて「プログラム参加者」、「参加者の周辺」を越えた波及的効果の出現が期待できるかが異なってきますので、図表１ではそれを予期しないパターン、図表２ではそれを予期するパターンを想定しています。なお、図表１・2 は、本ツールセットを作成するにあたってインタビューを実施した事業者や有識者の方へのインタビュー結果を基に作成したもので、あくまでも一例です。II.2.1 以降でアウトカムについて具体的に説明します。

図表 1: 環境教育分野におけるロジック・モデル（子ども対象）



* 個々のアウトカムのグルーピングは、本ツールでは便宜上行なっているもので、ロジック・モデルを作成する上で必須ではありません。

図表 2: 環境教育分野におけるロジック・モデル（成人対象）



＊個々のアウトカムのグルーピングは、本ツールでは便宜上行っているもので、ロジック・モデルを作成する上で必須ではありません。

II.2.1. 直接アウトカム

直接アウトカムは、事業の結果として直接的に発生する変化を指します。環境教育分野では、自然に触れる、自然の楽しさや脅威を体験すること等を通して事業の結果として期待される直接アウトカムには、「自然が好きになる」、「自然への畏敬が生まれる」、「環境やエネルギーの大切さに気付く」といったプログラム参加者の意識レベルでの変化があげられます。また、参加者が体験を共有することを通して「親睦が深まる」、「人間関係が豊かになる」といった関係者間における変化が見られる場合もあります（図表１、図表２）。

II.2.2.　中間アウトカム

上記の「直接アウトカム」が生じた結果、次の段階として現れる成果を「中間アウトカム」としています。ここでは、「環境を配慮した暮らしをするようになる」といったプログラム参加者の行動レベルでの変化が見られるようなります。また、「自然の魅力、環境についての周囲に伝える」といった、「参加者の周辺」への成果がみられる場合もあります（図表２）。

II.2.3.　最終アウトカム

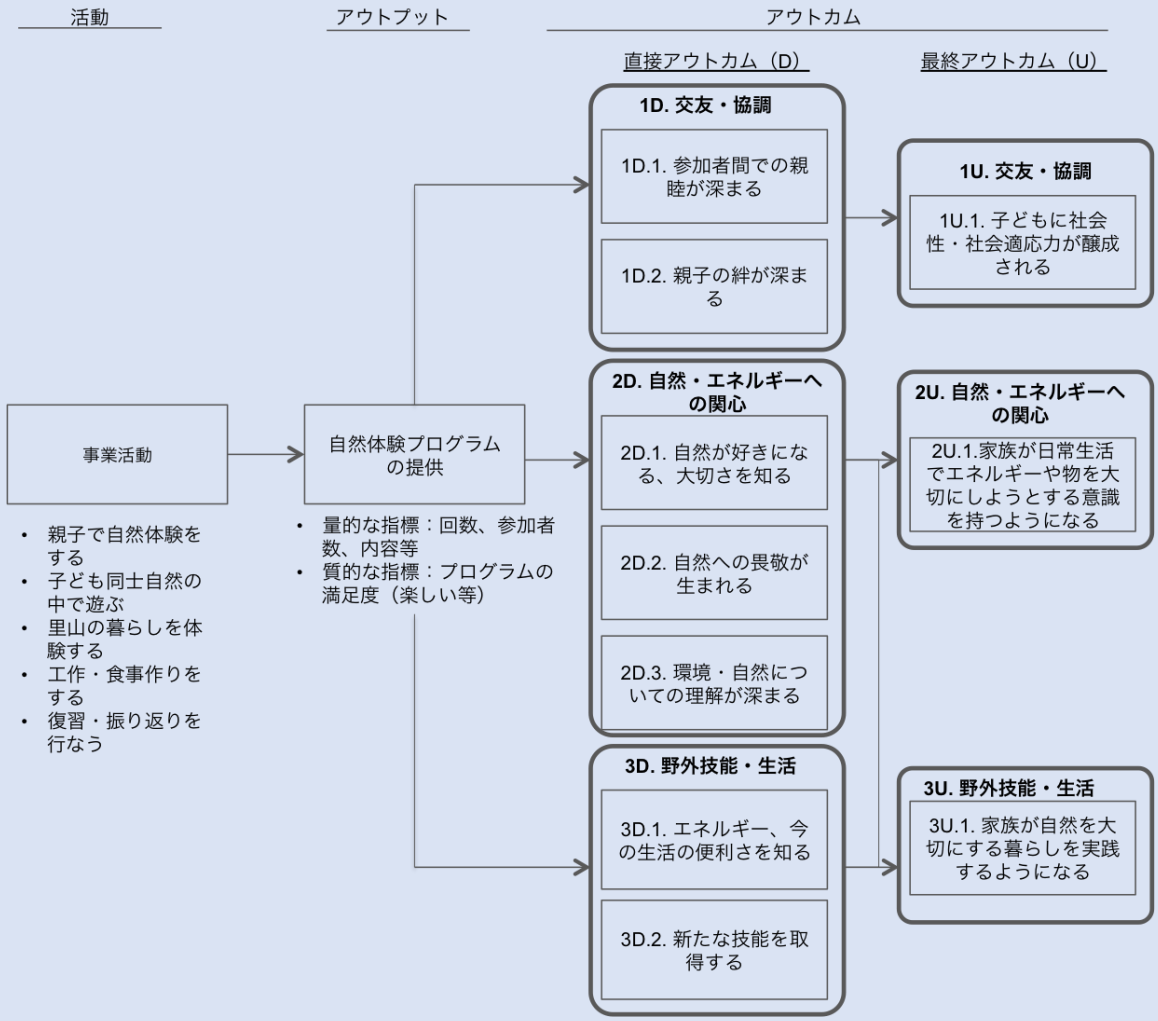
事業の最終目標であるロジック・モデルの「最終アウトカム」では、プログラム参加者の意識・行動レベルにおけるより大きい変化があげられます。事業対象者が成人の場合、「参加者の周辺」での変化において、より広がりが見られ、環境保全への貢献と見なすことができる事象が出現する場合もあります（図表２）。

ロジック・モデルの例 1

公益社団法人 A：親子での日帰り自然体験プログラム

公益社団法人 A は、小学低学年の児童とその保護者を対象に、自然に囲まれた環境で 1 日を楽しく過ごす、日帰り自然体験プログラムを行なっています。プログラムでは、ゲーム大会、親と子が分かれての自然体験や森林散策、火おこしから行なう料理、お菓子づくり、散策で見つけた森の材料を使ったクラフト製作などを行ないます。また、紙芝居などを使い、子どもたちが体験や学びを振り返る時間を設けているのが特徴です。

公益財団法人 A の事業は、ロジック・モデルでは以下のように表現することができます。

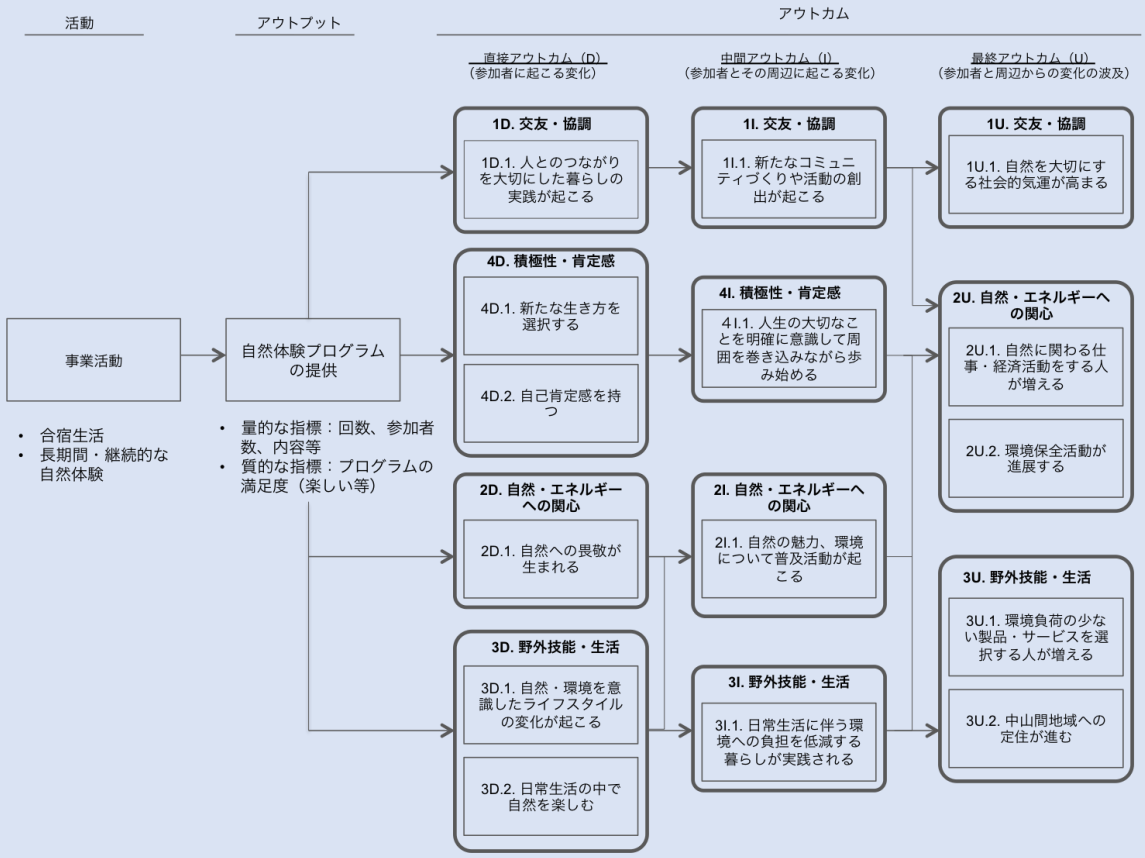


ロジック・モデルの例 2

団体 B：成人向け・長期間の自然学校

団体 B は、成人向け（18 歳以上）を対象とした 1 年間の自然学校を実施しています。講座は毎月 1 回、合宿形式（1 泊 2 日）で全 12 回実施されます。受講生はその期間、寝食を共にします。講座内容はアウトドア（カヤック、ケイビング他）や野外技術講習、キャンプ、田植え、トレッキング、雪上キャンプなどで、自然と対話する感性、「自然観」を獲得することを目的としています。参加者はアウトドアの技術や知識を身につけたい人、自然の中で思いっきり楽しみたい人など様々です。年齢・性別、職業、地域を越えた人々が集まり、自然の中で多くの時間・経験を共有することを通して密接な人間関係が生まれるのが特徴です。

団体 B の事業は、ロジック・モデルでは以下のように表現することができます。



III. アウトカムを測定する方法を決める

社会的インパクト評価ツールセット実践マニュアル 「Step 4: 指標・測定方法を考える」参照

「II. ロジック・モデルをつくる」で挙げたアウトカムを測定するためには、一般的には図表 3 に示すような指標、測定方法が有用です。

なお、以降で示す指標とその測定方法は、あくまで例を示したものであり、必ずこの指標や測定方法を用いて評価を行わなければならないわけではありません。評価を事業改善といった内部向けの目的で行う場合は、既存の指標や測定方法を用いるよりも、自団体が目指す具体的なアウトカムの内容に応じて、以降で例示されている指標や測定方法以外のものを用いるのはもちろんのこと、例示されている測定方法の質問項目を変えることが望ましい場合もあります。

以降で例示されている指標や測定方法は特定の価値判断を暗黙のうちに前提としている場合があります。評価を実施する目的を明確化した上で、以降に例示されている指標や測定方法、具体的な質問項目を確認し、自団体が考える価値、アウトカムを測定する上で適切かどうかを判断してください。

また、最終アウトカムについては、その実現までに長期間を要するものも多く、指標を設定することが難しかったり、仮に指標を設定し測定することができてもその変化に事業が「貢献」したことを評価することが難しかったりする場合がほとんどです。ただし、そうだとしても事業の最終的な目的を明確化するためにも、最終アウトカムをロジック・モデルとして明確化することは重要だと考えます。

なお、本ツールセットでは「ロジック・モデルの例 1・2」（P.2、P.3）に記載されているアウトカムに沿って、指標・測定方法を設定しています。この点、他分野のツールセットと一部異なります。

図表 3: アウトカム指標と測定方法の一覧：ロジック・モデルの例 1 親子での日帰り自然体験プログラム

ステークホルダー	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	アウトカムの指標	測定方法（掲載ページ）
プログラム参加者およびその家族	1. 交友・協調	1D.1. 参加者間での親睦が深まる	プログラム中の交流の様子	P.11
		1D.2.親子の絆が深まる	普段の生活における親子で過ごす時間の増加	P.11
		1U.1. 子どもに社会性・社会適応力が醸成される	だれとでも仲良くできる	P.12
	2. 自然・エネルギーへの関心	2D.1.自然を好きになる、大切さを知る	新たな環境教育プログラムへの参加	P.13
			自然に触れる機会の増加	
		2D.2. 自然への畏敬が生まれる	自然を大切にする気持ちが強まる	P.13
			花や風景など美しいものに感動できる	
		2D.3.環境・自然についての理解が深まる	環境保護や環境汚染、自然についての知識の増加	P.13
		2U.1. 家族が日常生活でエネルギーや物を大切にしようとする意識を持つようになる	日常生活におけるエネルギー、物の消費に対する意識が高まる	P.14
	3. 野外技能・生活	3D.1. エネルギー、今の生活の便利さを知る	火おこしなど体験の感想	P.15
		3D.2 新たな技能を取得する	刃物などが使えるようになる	P.15
		3U.1 家族が自然を大切にする暮らしを実践するようになる	家庭内での環境負荷低減（省エネ、ゴミ分別など）への取り組みの増加	P.16

図表 3：アウトカム指標と測定方法一覧：ロジック・モデルの例 2　成人向け・長期間の自然学校

ステークホルダー	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	アウトカムの指標	測定方法（掲載ページ）
プログラム参加者および参加者の周辺	1. 交友・協調	1D.1. 人とのつながりを大切にした暮らしの実践が起こる	市民活動や地域活動への参加の増加	P.17
		1I.1. 新たなコミュニティづくりや活動の創出が起こる	環境・自然に関わる活動を行なう組織を立ち上げる	P.18
		１U.1. 自然を大切にする社会的気運が高まる	環境に関わる市民活動の増加	P.19
			地方紙等の地域におけるメディアでの掲載数の増加	
	2. 自然・エネルギーへの関心	2D.1. 自然への畏敬が生まれる	自然を大切にする気持ちが強まる	P.20
		2I.1. 自然の魅力、環境についての普及活動が起こる	家族・友人と共にアウトドアを楽しむ機会の増加	P.21
			家族・友人と環境、自然について話す機会の増加	
		2U.1. 自然と関わる仕事・経済活動をする人が増える	環境に関わる仕事をする人の数	P.22
		2U.2. 環境保全活動が進展する	地域単位での環境保全への取り組み	P.22
	3. 野外技能・生活	3D.1. 自然・環境を意識したライフスタイルへの変化が起こる	3R に取り組む	P.23
			旬のもの、地のものを選んで購入する	
		3D.2. 日常生活の中で自然を楽しむ	家庭菜園、手仕事などを楽しむ機会の増加	P.24
		3I.1. 日常生活に伴う環境への負担を低減する暮らしが実践される	家庭内での環境負荷低減（省エネ、ゴミ分別など）への取り組みの増加	P.25
		3U.1. 環境負荷の少ない製品・サービスを選択する人が増える	環境配慮商品を購入する人の数	P.27
			カーシェアリングや自然エネルギーを利用する人の数	
		3U.2. 中山間地域への定住が進む	中山間地域人口の増加	P.28
			他地域からの移住・定住率の増加	
	4. 積極性・肯定感	4D.1. 新たな生き方を選択する	仕事やライフスタイルの変化	P.29
		4D.2. 自己肯定感を持つ	自己肯定感に関する心理尺度の点数	P.29
		4I.1. 人生の大切なことを明確に意識して周囲を巻き込みながら歩み始める	プログラム参加において自分に起こった最も重要な変化	P.31

ロジック・モデルの例 1 親子での日帰り自然体験プログラム

アウトカム　1D.1. 参加者間での親睦が深まる

指標　　プログラム中の交流の様子

測定方法　　写真（録画）に見られる表情、質問票（自由記述を含む）

　プログラム参加者の様子を写真や動画におさめ、そこに映っている表情や事象を様々な視点から検証し、「記述」します。複数のプログラム参加者の視点、プログラム実践者の視点と様々な視点からその場で起こったことや動作、および発言といった一挙手一投足、そして人々の関わりなどを、事細かに文章として起こしていきます。数値化できない質的評価を行なう手法の一つとして有用です。これに関連し、対象者の行動をより詳細に記録する方法の一つとして、ウェアラブルカメラの活用も考えられます。

出所：

公益財団法人日本環境教育フォーラム　ニュースレター『地球のこども　2016年11,12月号』

アウトカム　1D.2. 親子の絆が深まる

指標　　普段の生活における親子で過ごす時間の増加

測定方法　　フォローアップ調査

アウトカム　1U.1. 子どもに社会性・社会適応力が醸成される
指標　だれとでも仲良くできる
測定方法　フォローアップ調査

その他の参考測定方法

測定方法　質問票

出所：「IKR評定用紙（簡易版）」（詳細はP.32ページを参照）

調査項目：

多くの人に好かれている

だれとでも仲良くできる

アウトカム　2D.1. 自然を好きになる、大切さを知る
指標　新たな環境教育プログラムへの参加、自然に触れる機会の増加
測定方法　フォローアップ調査

アウトカム　2D.2. 自然への畏敬が生まれる
指標　自然を大切にする気持ちが強まる、花や風景などの美しいものに感動できる
測定方法　フォローアップ調査、質問票

その他の参考測定方法

測定方法　質問票

出所**：**「IKR評定用紙（簡易版）」（詳細はP.32ページを参照）

調査項目：

花や風景などの美しいものに、感動できる

季節の変化を感じることができる

アウトカム　2D.3. 環境・自然についての理解が深まる
指標　環境保護や環境汚染、自然についての知識の増加
測定方法　フォローアップ調査

アウトカム　2U.1. 家族が日常生活でエネルギーや物を大切にしようとする意識を持つようになる

指標　日常生活におけるエネルギー、物の消費に対する意識が高まる

測定方法　フォローアップ調査

その他の参考測定方法

測定方法　質問票

出所：環境省「子ども・エコ・アンケート（平成 15 年度調査）」

http://www.env.go.jp/policy/kihon_keikaku/lifestyle/h1610_02.html

Q: あなたは、次のようなことについて、どう思いますか。

1. 将来の環境のことを考えると心配だ
2. 環境問題は自分にも影響がある問題だと思う
3. ものの無駄づかいをしたり、大量のごみを出したりする今の生活は、改めた方がよい
4. 自分も環境を悪化させている一人である
5. 環境のことについてもっと知りたい
6. 環境保全のために積極的に行動したい
7. 環境を守ると社会全体が豊かになる

   1: とてもそう思う
   2: 少しそう思う
   3: あまりそう思わない
   4: まったくそう思わない

アウトカム　3D.1. エネルギー、今の生活の便利さを知る
指標　火おこしなど体験の感想
測定方法　質問票

アウトカム　3D.2. 新たな技能を取得する
指標　刃物などを使えるようになる
測定方法　質問票

その他の参考測定方法

測定方法　質問票

出所：「IKR 評定用紙（簡易版）」（詳細は P.24 ページ参照）

調査項目：

ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える

洗濯機がなくても、手で洗濯できる

アウトカム　3U.1. 家族が自然を大切にする暮らしを実践するようになる
指標　家庭内での環境負荷低減（省エネ、ゴミ分別など）への取り組みの増加
測定方法　フォローアップ調査

その他の参考測定方法

測定方法　質問票

出所：環境省「子ども・エコ・アンケート（平成 15 年度調査）」
http://www.env.go.jp/policy/kihon_keikaku/lifestyle/h1610_02.html

Q: あなたは、日ごろから、次のようなことをしていますか。

1. 使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す
2. 使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める
3. 家で花や木を育てる
4. ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミ（空き缶、ペットボトル、古新聞など）に、きちんと分別する
5. 地域の人たちが行う、地域の掃除に参加する
6. 地域の人たちが木や花を植える時には参加する
7. ものは長く使えるように大切に使う
8. 家族や友達などと環境問題について話し合う
9. 鉛筆やノートは、環境に良いものを買う
10. 買い物のとき、レジ袋をもらわないように気をつける

    1: とてもそう思う
    2: 少しそう思う
    3: あまりそう思わない
    4: まったくそう思わない

ロジック・モデルの例2　成人向け・長期間の自然学校

アウトカム　1D.1. 人とのつながりを大切にした暮らしの実践が起こる
指標　市民活動や地域活動への参加の増加
測定方法　フォローアップ調査

その他の参考測定方法

測定方法　質問票

出所：平成 28 年度静岡県県政世論調査報告書

https://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-120/yoron.html

Q：あなたは地域のどのような行事や活動に参加していますか。

1. 清掃活動、自然保護などの環境保全活動
2. お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動
3. 避難訓練などの自主防災会や消防団の活動
4. 町内会などの会議・話し合い
5. 運動会など地域で行うスポーツに関する行事
6. 新年会・忘年会などの懇親会
7. 子ども会に関係した行事
8. 老人会に関係した行事
9. 地域の公民館の講座などの自己啓発活動
10. 町内会などの旅行
11. あいさつ運動などの青少年健全育成活動
12. ひとり暮らし高齢者への声かけなど身近な福祉活動
13. 街頭指導などの交通安全活動
14. 夜間パトロールなどの防犯活動
15. その他
16. 参加している行事はない

アウトカム　1I.1. 新たなコミュニティづくりや活動の創出が起こる
指標　環境・自然に関わる活動を行なう組織を立ち上げる
測定方法　フォローアップ調査

アウトカム　１U.1. 自然を大切にする社会的気運が高まる

指標　環境に関わる市民活動の増加

地方紙等の地域におけるメディアでの掲載数の増加

測定方法　地域単位での環境 NPO の数や環境活動に関する指標

その他の参考測定方法

測定方法　環境 NGO・NPO 総覧オンラインデータベース

https://www.erca.go.jp/jfge/ngo/html/main.php

民間・非営利の団体で日本国内に拠点を置き、環境保全活動を国際的、全国的に実施している団体から、市町村単位で地域の実情に即して活動を実施している団体（以下、「環境 NGO・NPO」とする。）まで、あらゆる規模の団体について、活動実態を明らかにし、広く一般に提供することにより、環境保全活動への理解を高めるとともに、環境 NGO・NPO 相互の情報共有に役立つことを目的にしたオンラインデータベースです。団体の所在地、活動分野、活動地域などを選択して検索することができるので、地域単位での環境 NPO 活動実態が分かります。

アウトカム　2D.1. 自然への畏敬が生まれる
指標　自然を大切にする気持ちが強まる
測定方法　フォローアップ調査

その他の参考測定方法

測定方法　質問票
出所：内閣府「環境問題に関する世論調査（H26 年度調査）」
http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-kankyou/

Q: 生物多様性の保全のため、地球上のさまざまな生物やそれらが生育できる環境を守る取組が進められていますが、
あなたは、このことについてどのようにお考えでしょうか。この中から１つだけお答えください。

1. 人間の生活がある程度制約されても，多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する
2. 人間の生活が制約されない程度に，多種多様な生物が生息できる環境の保全を進める
3. 人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには，多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない
4. その他
5. わからない

アウトカム　2I.1. 自然の魅力、環境についての普及活動が起こる

指標　家族・友人と共にアウトドアを楽しむ機会の増加

家族・友人と環境、自然について話す機会の増加

測定方法　フォローアップ調査

アウトカム　2U.1. 自然と関わる仕事・経済活動をする人が増える
指標　環境に関わる仕事をする人の数
測定方法　フォローアップ調査

アウトカム　2U.2. 環境保全活動が進展する
指標　地域単位での環境保全への取り組み
測定方法　市町村単位での調査

出所：

平成 28 年度静岡県県政世論調査報告書

https://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-120/yoron.html

Q：あなたは、節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など、環境への配慮を実践していますか。

1. おおいに実践している
2. ある程度実践している
3. どちらともいえない
4. あまり実践していない
5. まったく実践していない
6. わからない

アウトカム　3D.1. 自然を意識したライフスタイルへの変化が起こる

指標　3R に取り組む

旬のもの、地のものを選んで購入する

測定方法　フォローアップ調査

その他の参考測定方法

測定方法　質問票

出所：内閣府「環境問題に関する世論調査（H26 年度調査）」

http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-kankyou/

Q：あなたは，生物多様性に配慮したライフスタイルとして，これからどのようなことを行いたいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。

1. 旬のもの、地のものを選んで購入する
2. 身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう
3. エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する
4. 自然保護活動や美化活動に参加する
5. 生きものを最後まで責任を持って育てる
6. 環境に配慮した商品を優先的に購入する
7. 自然や生きものについて，家族や友人と話し合う
8. 節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む
9. その他
10. 特に行う予定はない
11. わからない

アウトカム　3D.2. 日常生活の中で自然・環境を意識し、楽しむ
指標　家庭菜園、手仕事などを楽しむ機会の増加
測定方法　フォローアップ調査

アウトカム　3I.1. 日常生活に伴う環境への負担を低減する暮らしが実現される
指標　家庭内での環境負荷低減（省エネ、ゴミ分別など）への取り組みの増加
測定方法　フォローアップ調査

その他の参考測定方法

測定方法　質問票
出所：内閣府「第 1 部 環境に配慮した日常生活に関する国民の意識・行動調査（平成 20 年度）」
「第 2 部 消費行動に関する意識・行動調査（平成 20 年度）」
http://www5.cao.go.jp/seikatsu/monitor/pdf/kankyosyohi090225.pdf

Q: あなたは、日常の買い物の際、環境に配慮して実践していることがありますか。次の 中からいくつでも〇をつけてください。(〇はいくつでも)

1. シャンプーや洗剤などは、詰め替え用の商品を選ぶ
2. レジ袋は断り、マイバッグを使う
3. 必要なものを必要な量だけ買う
4. 家電製品などは、省資源・省エネルギー型のものを選ぶ
5. 「地元産」「旬」のものを選ぶ
6. 近所への買い物は、徒歩や自転車で行く
7. 長く使えるものを選ぶ
8. 再生紙を使用したトイレットペーパーなど、リサイクル商品 (再生した原料を使用した商品)を選ぶ
9. 包装ができるだけ少ない商品を選ぶ
10. エコマークなどの環境ラベル(マーク)が付いたものを選ぶ
11. リサイクルショップやフリーマーケットなどを活用する
12. 環境配慮に取り組んでいる店舗や企業の商品を買う
13. ビン牛乳やビンビールなど繰り返し使える容器に入ったものを選ぶ
14. その他
15. 特にしていない

アウトカム　3U.1. 環境負荷の少ない製品・サービスを選択する人が増える

指標　環境配慮商品を購入する人の数

カーシェアリングや自然エネルギーを利用する人の数

測定方法　市町村単位の調査や国民調査

出所：

内閣府「第 1 部 環境に配慮した日常生活に関する国民の意識・行動調査（平成 20 年度）」

「第 2 部 消費行動に関する意識・行動調査（平成 20 年度）」

http://www5.cao.go.jp/seikatsu/monitor/pdf/kankyosyohi090225.pdf

環境省「環境にやさしいライフスタイル実態調査（平成 27 年度調査）」

http://www.env.go.jp/policy/kihon_keikaku/lifestyle/h2804_01.html

---

Q: あなたは、企業が環境や社会的によいとされている価値に関して配慮しているかどうかによって、その企業の製品やサービスを買うか買わないか決めていますか。次の中から1つだけ〇をつけてお答えください。(〇は1つだけ)

1. はい
2. いいえ
3. ほとんど買い物を自分でしないからわからない。

Q: 環境に配慮した製品についてお伺いします。(1) あなたやあなたのご家族は、1省エネ型家電(※1)、2環境配慮型自動車(※2)、3高効率給湯器(※3)、4太陽光発電システム、5HEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)(※4)の購入を検討したり、興味を持ったりしたことはありますか。1〜5について、それぞれ当てはまるもの一つに〇をつけてください。

	1 省エネ型家電	2 環境配慮型自動車	3 高効率給湯器	4 太陽光発電システム	5 HEMS
1. すでにそのような製品を購入済み、または発注済みであり、環境面で興味を持っている					

2. すでにそのような製品を購入済み、または発注済みであるが、特に環境面で興味があるわけではない					
3. そのような製品に興味があり、購入の検討対象に入れようと思っている					
4. そのような商品に興味はあるが、購入の検討対象にはならない					
5. そのような製品にあまり興味がない					
6. そのような製品があることを知らなかった					
7. 家電製品や自動車、給湯器の購入・買い替えの予定がない					
8. 家電製品や自動車、給湯器を利用していない					
9. わからない					

(※1)省エネ型家電とは、エコポイント対象のテレビ、エアコン、冷蔵庫が該当します。 (※2)環境配慮型自動車とは、電気自動車、天然ガス自動車、メタノール自動車、ハイブリッド自動車、燃料電池自動車、低燃費かつ低排出認定車(エコカー減税対象車(平成 17 年基準値 75%以上低減(ラベル4☆)かつ燃費基準+15%以上)などの低公害車)が該当します。 (※3)高効率給湯器とは、エコキュート、エコウィル、エネファーム等のガスエンジン給湯器、潜熱回収型給湯器、CO2 冷媒ヒートポンプ給湯器又は家庭用燃料電池が該当します。 (※4)HEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)とは、エネルギーの使用状況をリアルタイムで表示する等、家庭におけるエネルギー管理を支援するシステムが該当します。

アウトカム　3U.2. 中山間地域への定住が進む

指標　中山間地域人口の増加

他地域からの移住・定住率の増加

測定方法　市町村単位での調査

出所：

CSO ネットワーク（2016）『「地域の力」診断ツール　ワークブック』

http://www.csonj.org/infoarchive/publication/workbook001

島根県邑南町（平成 27 年）「邑南町人口ビジョン・総合戦略測定のためのアンケート調査　定住・移住に関するアンケート調査結果報告書」

http://www.town.ohnan.lg.jp/docs/2015103000015/files/questionnaire_ohnan.pdf

---

Q：あなたのまわりに I ターン者（地域出身でない方）はいますか。

1. いない
2. ほとんどいない
3. 数人いる
4. 多く存在する

Q：あなたが邑南町で暮らし始めたのはいつからですか

1. 生まれたときからずっと暮らしている
2. 以前は別のところに住んでいて、転入し暮らし始めた

アウトカム　4S.1. 新たな生き方を選択する
指標　仕事やライフスタイルの変化
測定方法　フォローアップ調査

アウトカム　4S.2. 自己肯定感を持つ
指標　自己肯定感に関する心理尺度の点数
測定方法　自由記述

その他の参考測定方法

測定方法　ローゼンバーグ自尊感情尺度

ローゼンバーグ自尊感情尺度（Rosenberg's Self Esteem Scale:RSES）は、国内外で広く用いられている、自己肯定感の程度を測定するための10項目からなる尺度です。

出所：

Rosenberg, M. (1965) *Society and the adolescent self-image*. Princeton, NJ: Princeton University Press: http://fetzer.org/sites/default/files/images/stories/pdf/selfmeasures/Self_Measures_for_Self-Esteem_ROSENBERG_SELF-ESTEEM.pdf

内田 智宏, 上埜 高志（2010）「Rosenberg 自尊感情尺度の信頼性および妥当性の検討：Mimura & Griffiths 訳の日本語版を用いて」東北大学大学院教育学研究科研究年報, 第 58 集・第 2 号.

	強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない
1. 私は、自分自身にだいたい満足している。	□	□	□	□
2. 時々、自分はまったくダメだと思うことがある。	□	□	□	□
3. 私には、けっこう長所があると感じている。	□	□	□	□

4. 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる。	□	□	□	□
5. 私には誇れるものが大してないと感じる。	□	□	□	□
6. 時々、自分は役に立たないと強く感じることがある。	□	□	□	□
7. 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる。	□	□	□	□
8. 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う。	□	□	□	□
9. よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう。	□	□	□	□
10. 私は、自分のことを前向きに考えている。	□	□	□	□

* 強くそう思う=4, そう思う=3、そう思わない=2、強くそう思わない=1 で点数化（質問項目 2, 5, 6, 8, 9 については、 強くそう思う=1、そう思う=2、そう思わない=3、強くそう思わない=4）。

アウトカム　4I.1. 人生の大切なことを明確に意識して周囲を巻き込みながら歩み始める
指標　プログラム参加において自分に起こった最も重要な変化
測定方法　フォローアップ調査（ヒアリング）

参考測定方法・指標

1. テキストマイニング

ある程度分量のある自由記述を含めた質問票には、テキストマイニングを活用すると参加者全体の反応を俯瞰して読み解き、傾向をつかむことができます。文章を自動的に単語に区切って分解し、どの質問票にどの単語が何回でてくるか、という集計を行なってから、各種統計的な処理を行なう分析方法です。現在、KH Coderというフリーソフトも存在します。

出所：

公益財団法人日本環境教育フォーラム　ニュースレター『地球のこども　2016年11,12月号』

KH Coder　http://khc.sourceforge.net/

2. 「IKR評定用紙（簡易版）」を用いた調査（対象者は小学4年生以上からを想定）

「宿泊を伴う」または「体験活動を含む」事業を対象とした調査。心理的社会能力（14項目）、徳育的能力（8項目）、身体的能力（6項目）の3つの能力で構成されています。体験活動の開始時（事前調査）と終了時（事後調査）に実施し、「とてもよくあてはまる」（6点）から「まったくあてはまらない」（1点）まで1点刻みで得点化します。

出所：

独立行政法人　国立青少年教育振興機構　（平成22年3月）事業評価に使える！「生きる力」の測定・分析ツール

http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/69/

3. SLE（Significant Life Experiences：環境行動に影響を及ぼした体験）

米国で環境に対して積極的で知識豊かな市民を生み出すために、その者達の学習経験を知る必要性を 唱えたTanner.Tによって始められた研究です。環境に対して積極的に行動をおこしている者を対象にし、その者のライフヒストリー（過去の体験）の中で、どのような体験が環境行動に影響を及ぼしたのかを探ることを目的としています。日本においても、これまでに降旗信一氏（東京農工大学農学部教授）らの研究において、自然体験が環境行動に影響を及ぼすことが明らかにされています。

参考文献：

- 少年期の組織キャンプにおけるSignificant Life Experiencesが成人期の環境行動に及ぼす影響-花山キャンプを事例としてー（『野外教育研究』Vol.12 (2008) No.1 P 27-40、日本野外教育学会）

  https://www.jstage.jst.go.jp/article/joej1997/12/1/12_1_27/_pdf

- 環境教育としての自然体験学習の課題と展望（『環境教育』Vol.19（2009）No.1、日本環境教育学会）

  https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsoee/19/1/19_1_1_3/_article/references/-char/ja/

- 野外教育者にとっての Significant Life Experiences(SLE)の意味づけに関する研究（2015 年、びわこ成蹊スポーツ大学）

  http://hdl.handle.net/10693/1932

4. モスト・シグニフィカント・チェンジ（MSC）

現場レベルで発生する重大な変化(SC)の物語の収集と、特定の利害関係者やスタッフからなる集団による最も重大な物語の選定から構成される、参加型モニタリング・評価手法です。

http://blog.livedoor.jp/sankagatahyouka/MSCGuide-Japanese-2013.pdf

GSG 国内諮問委員会
社会的インパクト評価ワーキング・グループ

伊藤 健
石幡 愛
今田 克司
梅原 あすな
大沢 望
鴨崎 貴泰
川合 朋音
熊谷 薫
下田 聖実
藤田 滋
松田 典子
森田 修康

本ツールセット作成にご協力頂いた方々

敬称略、肩書きはインタビュー当時

公益社団法人日本環境教育フォーラム
ホールアース自然学校

阿部 治	立教大学 ESD 研究所 所長
本城 宏行	独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 地球環境基金課長
山崎 唯司	独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金評価専門委員会 専門委員

お問い合わせ先
GSG 国内諮問委員会 事務局
一般財団法人社会的投資推進財団
03-6229-2622 / info@siif.or.jp